

平成 18 年度学術ポータル担当者研修レポート（新潟大学）

No.17 織田裕行

No.18 樋浦真弓

No.19 山城光生

1. 「学術ポータル担当者研修」でのプレゼンテーション

新潟大学では、「新潟大学学術リポジトリ（仮称）」の公開を平成 19 年度春期を目処に、その準備を進めている。

6 月開催の図書館委員会で、教員をメンバーとする「新潟大学学術リポジトリ専門委員会」の設置が了承され、構築推進の体制が確保された。また、図書館職員からなる「学術リポジトリ構築ワーキンググループ」も設置され、実質的検討を開始し現在に至っている。このように当初から、大学の事業としての位置づけの確保と教員への周知に配慮しながら、本学としての最善の方法を探りつつ、リポジトリ実現に向けて進行中である。本研修の受講者についても、上記ワーキンググループメンバーから選出された。

研究成果の生産者である個々の教員に如何にして理解を求めるかは、7 月時点でも重要課題となっていた。受講者は、今回の研修のカリキュラムに即した形で、実際の説明会での活用を想定した資料の作成を目指すこととした。

状況設定は、理系の学部の方が機関リポジトリへの理解を得られやすいのではないかとの予測から、「農学部の教授会の前に時間をもらい、機関リポジトリとは何かから説明、コンテンツ提供への協力を求める。」とした。

先行実施機関の事例報告には、学術雑誌掲載論文を登録するに当たり、多くの出版社が許可する「著者最終版」の入手に苦労している例が多々見受けられたため、この版について詳しく説明をし、確保を図ることが重要と考えた。その結果、著者版関連の説明に重点を置いた資料となった。

7 月 28 日の研修会場における発表時のプレゼン資料の構成は以下のとおりである。

1. 学術機関リポジトリとは？（説明）
2. 各大学の先行事例（他大学リポジトリ画面）
3. 登録する研究成果の種類
4. 新潟大学学術リポジトリ概念図
5. 学術リポジトリのメリット
6. ①研究成果登録のお願い・送付先 ②共著者への許諾依頼
7. 学術雑誌掲載論文について 著作権に関する説明（出版社ごとに条件が異なる）
8. 海外出版社の著作権ポリシー（eprints 調査による表）
9. 編集・査読プロセスの例（北海道大学 HUSCUP 資料）
10. 著者版の提供依頼と、出版社のポリシーは図書館が調査する旨の説明

11. リポジトリ準備ページ URL・連絡先

この発表に対し、講師からは下記の助言があった。

- ・ レイアウト：地の色と URL、メールアドレスの色が似ていて目立たない。
- ・ 著者版について強調しているが、それ以外は登録できないという印象を受けてしまう。どの版の掲載を認めるかは、出版社・学会によって様々であり、出版社版の掲載を認めるところもあるので、著者版を強調し過ぎないほうがよい。

2. プレゼン資料の改訂、学内でのリハーサルプレゼンテーション

研修会場での助言を踏まえ、プレゼン資料に下記の改訂を加えた。

- ・ スライドの地の色を白、メールアドレスの色は赤に変更した。
- ・ 著者版については敢えて強調せず、出版社の許諾パターンの一つとして触れるにとどめた。

この他に、研修中には農学部の特化した内容を盛り込めなかったため、農学系でリポジトリへの掲載を許可している学術雑誌の表紙を貼り付けたスライドを用意した。その時点では、同様に各学部用として、その特性に配慮したスライドを部分的に加えることを構想していた。

再構成の後に、説明文の簡略化等、表現の修正も行った。

改訂したプレゼン資料の構成は以下のとおりである。

1. 学術機関リポジトリとは？（説明を箇条書きにし、簡略化）
2. 各大学の先行事例（他大学リポジトリ画面）
3. 登録する研究成果の種類
4. 新潟大学学術リポジトリ概念図
5. 学術リポジトリのメリット
6. 研究成果提供依頼
7. 研究成果の送付先・共著者への許諾依頼
8. （補足）学術雑誌掲載論文について 著作権に関する説明（簡略化）
9. 農学分野でリポジトリへの掲載を認めている雑誌
10. 海外出版社の著作権ポリシー（eprints 調査による表）
11. 出版社のポリシーは図書館が調査する旨の説明
12. 著者版の提供依頼と、出版社のポリシーは図書館が調査する旨の説明
13. リポジトリ準備ページ URL・連絡先

この改訂資料を元に、リハーサルプレゼンテーションを行った。

3. リハーサルプレゼンテーションの概要

日時：8月21日（月） 14：00-16：00 （研修内容についての報告会を含む）

会場：新潟大学附属図書館中央館・情報リテラシールーム

発表者：山城

発表対象：附属図書館長、図書館職員（19名）

4. リハーサルプレゼンテーション時の意見・感想

寄せられた感想は以下のとおりである。

プレゼンの流れについて

- ・ スライドの順番だが、リポジトリの目的・メリットを先に述べたほうがわかりやすい。また、「皆様の研究成果をご提供ください」と言ったあとに、具体的な研究成果の種類を並べた方が、流れとして理解しやすい。
- ・ 概念図は3枚目くらいに出てくるほうがよい。
- ・ 時間の設定はどうなっているのか。今日は12分ほどかかっていた。
- ・ リポジトリの説明、著作権の説明等、整理が必要な部分がある。

内容について

- ・ メリットが弱い。研究者にとってのインパクトのあるメリットを考える必要がある。
- ・ 「可視性」という言葉はわかりにくい。論文が見えやすくなる、研究成果へのアクセスの向上等、馴染み深い言葉を使ったほうがよい。
- ・ 「研究成果の永続的保存」という項目に関連して、「定年後もデータを取っておきます」とアピールするとよい。
- ・ メリットに、「大学の説明責任」という言葉を入れたほうがよい。
- ・ 概念図の「書誌データ」という言葉は、「メタデータ」でよいのではないかと。
→（上記に対して、館長から）いや、「メタデータ」はわかりにくい。
- ・ なぜこんな面倒なことを図書館がやるのかという質問が予想される。今までは、主として外部資料の収集・提供を行ってきたが、これからは、学内情報の収集・発信を行っていくということの説明があるとよい。例えば、「図書館が変わります！」「図書館の新しい挑戦」などの副題をつけるとインパクトがある。

リポジトリの構築、運用方針等に関わる意見

- ・ どういうものを何年分から集めるのか。基本方針を決定した上で、研究者になるべく負担がかからないような方法で行う必要がある。
- ・ 「学位論文」は博士までなのか、修士までなのか、卒業論文も含むのか、収集方針の決定が必要。

- ・ 卒業論文を紙で管理している学部では、保管スペースが足りなくなっている。卒論までリポジトリに登録（電子化）してくれると助かるので、卒論の登録まで認めるならばメリットのひとつとなるかもしれない。
- ・ 紙媒体も受け付けてくれるとよい。
- ・ メールだと、データの容量が大きく、送付できない場合がある。CD 等での受付をすべきである。博士論文等も容量は膨大なものがある。
- ・ 遡及分に関しては、図書館で著作権の確認を行うが、新規に投稿される分に関しては、教員に登録をお願いすると書き添える必要がある。
- ・ 研究業績データベースとの連携について盛り込まれていないが、研究者にとって二度手間にならないよう、連携を考えていく必要がある。
- ・ 著者最終原稿のメタデータに、掲載される雑誌の巻号年、ページ数等を入力してもよいのか。
- ・ 著作権について 紀要はどうなっているのか、説明が必要。

5. 今後の予定、展望など

今回レポート内容として提示するスライドは、前掲の2回のプレゼン時に得た意見を踏まえ、改訂を経たものである。

1. 学術機関リポジトリとは？（説明を箇条書きにし、簡略化）
2. 学術成果の発信と活用
3. 学術リポジトリのメリット
4. 世界的実施状況
5. 研究成果提供依頼
6. 著作権者の許諾を得て公開の旨の説明
7. 送付方法
8. リポジトリ準備ページ URL・連絡先

説明項目を絞り、記述も簡略化を図った。例えば著作権に関する説明について、著者版等の別を限られた時間内に示すことは難しく、説明効果について未知数のため、再整理の上での表現となった。部分的加工により学部別の説明資料として提示する構想についても、現在のところ見合わせている。

他方、スライド以外の方法も含め、改めて説明と広報の方法について、構築ワーキングにより検討されることとなった。前掲の館内リハーサルにおいても、

- ・ 実際に教授会へ説明に行く際には、PowerPoint が使用できる環境とは限らない。時間の制約もあることから、実際の説明時には PR 用パンフレットを持って出向き、口頭による説明形式となるのではないかと。広報は多面的・持続的に行う必要がある。とする意見もあり、訪問先の会場状態を考慮し、適切な開催方式検討を進めた。

実際の開催方式は、教授会等の部局単位で教員が集まる機会を捉えて説明の場を確保

し、関連事項を簡略に記載した印刷物の配布を予定している。スライド自体の使用は未定であるものの、作成中の配布資料は今回のスライドと内容的関連を持つものであり、一部の画像についても、使用の了解を得て共通のものを使用した。各回の説明時間は10分程度とし、各部局の特性に配慮した解説は口頭で補足することとした。日程の調整がついた学部から順次、説明を開始したところである。

同時に、学内向け広報用として、準備版 Web ページを構築中である。こちらについても、口頭説明時の補足情報を整理して掲載し、教員の関心に応じて随時参照可能とすることが予定されている。

(結びにかえて)

今回の研修に際しては、先行開始機関の実状を踏まえての説明・広報戦略を中心に知見を得ることができた。講義の直接的内容の他、折にふれ紹介された実際的な苦労等に関しても、本学での構築に資する貴重な事例として非常に参考になるものがあり、それらは館内報告会等を通じて関係者に伝え、実際の構築戦略にも反映することができた。特に以下の点に関しては、関係者間で問題意識の共有を図り、本学での推進手法を定めることに繋がったと考えている。

- ・ 独自に説明会として開催する方式では、教員の多数参加は望めない
- ・ 説明に際しては、図書館特有の用語の使用は抑制すべき
- ・ リポジトリの概念と、その意義の認知を図っていく必要がある
- ・ 照会窓口、研究成果データ提出先の明確化

この度の得がたい研修の機会を与えていただきましたことを深く感謝いたします。

(平成 18 年 10 月 13 日提出)

追記：

各学部の教授会において、パンフレットを用いて10分程度の説明会を行ったところ、説明会終了後すぐに資料の登録を申し出た教員も現れるなど、教員からの反応は予想したよりは好意的に思われた。

これらの他、国立情報学研究所から提供を受けた CiNii 掲載紀要の PDF 及び書誌データなどの収録予定データを集約し、電子化・加工のための発注を準備中である。入札により導入メーカーも決まり、構築の打ち合わせ等の関連スケジュールも順次固まりつつある。

(平成 19 年 1 月 19 日提出)